

花山多佳子

塔

胡瓜の木

夕空のあれは何かとおもふまで大いなる月 一月一日

初夢に胡瓜の木といふもの見たり胡瓜が高くなびきるたりき

なすびではなけれど胡瓜のはつゆめを見たりしことを幸ひとせむ

姪つ子とあそぶ息子の高笑ひひびけば娘がうれしさうなり

年末は眠りつづけてゐた息子 就活三度目の心弱りに

非正規と正規まざまざ身分差となりたる今の世代差あはれ

「家族みな破綻のリスク」 あらばあれリビングに四人ババ抜きをする

「何ですか」と聞かれたときに言うせりふ「国の仕事で地盤の調査」

森尻理恵『S坂』

ば帯磁率加え」など、この人の仕事の連作は特殊な用語も加え、風景や土壌への把握も具体的でとても興味深い。

作者は地球物理研究職にあり、機材を抱えて土地の測量、調査に赴く重労働も多い。不審に思う人もいるだろう。「何ですか」がリアル。きかれて「言うせりふ」がいい。「国の仕事で」が、これさえ言っとけば日本人は納得する。もろもろ説明するとややこしいので「地盤の調査」。このせりふも、一首のつくりも明快でおもしろい。「道端にしゃがみこみでは重力を測り測りぬ二百点ほど」「測るのは重力、時刻、位置、気圧、露頭があれ

同時に「蛇紋岩の磁性がわかってその先は何が出来るかと問いただされし」「わが論の不備を指摘し勝ち誇る男の細き指先を見る」といった組織での軋轢も生々しく描かれる。『S坂』は、子育ての歌も含めて、女性の働くことのシビアさが率直に伝わる歌集だ。特殊な仕事ではあるが、女性共通の生な声があふれている。